

私の伝えたいこと

発心寺住職 原田 雪溪

秋の摂心に向けて、私が日頃考えていることを、お伝えしたいと思います。

禅ほど大きいものではなく、また禅ほど小さいものはありません。禅は、禅だけです。

坐禅をして、考えて何かが生まれてくる、そういうものでは何にもなりません。もし、「これはいいことだ」という考えがおきても、それは禅ではありません。たとえ考えることがなくなっても、「ない」というものが残ります。その「ない」ものを、坐って打ち消していかなければなりません。

禅は語るものではありません。だから、私は話をしないで坐ります。

それが、達磨大師のお座りになった面壁九年です。達磨大師が九年なら、私はその倍の十八年坐ります。「面壁」の「壁」というのは、この世のあらゆるものを指します。そのあらゆる壁に立ち向かって黙して坐ることのみをしようと思っています。

残念ながら、いまは「禅」を売り物にして、きらびやかな儀式や法要のために、人や、道具や、建物が必要になるという、本末転倒の状態です。

そうせざるを得ないという悲しい現状を否定することはできませんが、そのなかにあっても、いつも「禅」とは坐ることであり、そのためには「単」だけあれば、他には何も要らないということを、いつも忘れないでいただきたいと思います。

平成二十二年秋